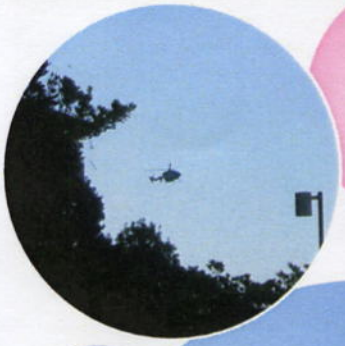
広報 県立 海部病院

No.5
冬号

病院機能評価 Ver.5.0 認定病院



地域医療を守る決起大会が開催されました…P3

母乳外来のお知らせと母親学級について
…P4

県消防防災ヘリコプター「うずしお」による
救急患者搬送とドクターヘリ…P2

県立病院事業基本理念

県民に支えられた病院として
県民医療の最後の砦となる

県消防防災ヘリコプター「うずしお」による救急患者搬送とドクターヘリ

徳島県立海部病院外科医長
上 山 裕 二

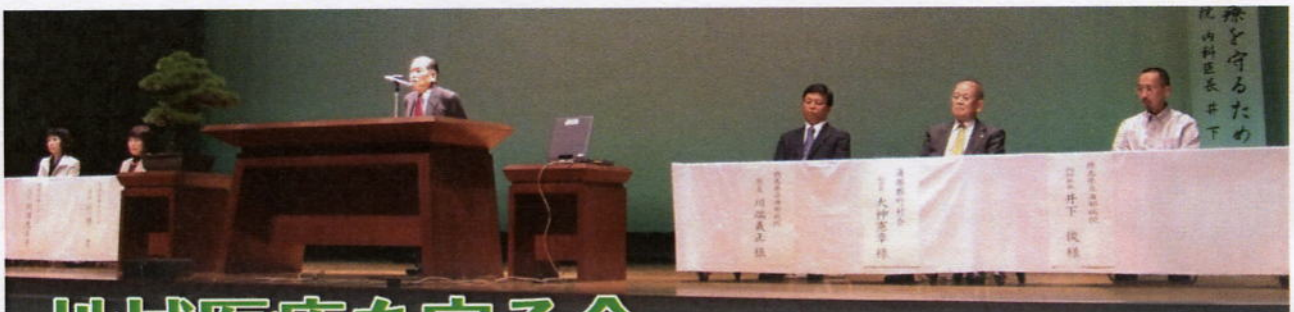
徳島県では以前より県消防防災ヘリを利用した救急患者搬送を行っています。そのほとんどは、山間へき地の診療所や県西部・南部の病院から、徳島市や小松島市の病院への転院搬送（病院間搬送）であり、年間20－30件程度の実績があります。しかしこれまでは、搬送依頼元病院の医師(たとえば海部病院医師)がヘリに同乗して市内の病院まで行き、帰りは車で戻っていたため、約3－4時間ものあいだ病院医師が１名少ないという状況がおこっていました。山間へき地の診療所であればこの間は無医村になっていたわけです。

この問題を解決すべく、平成20年8月から受入病院側の医師がヘリに同乗してくる体制が始まりました。具体的には、救急搬送の要請を受けた県消防防災ヘリは、松茂の飛行場を飛び立ったあと、途中で県立中央病院や徳島赤十字病院の医師をピックアップし、海部病院であれば牟岐少年自然の家にある芝生グラウンドに着陸します。海部病院からは患者を乗せた救急車が少年自然の家に向かい、ヘリに患者を引き継きます。ヘリ利用は搬送時間の短縮につながります。例えば徳島赤十字病院まで陸路70分ほどかかっていたものが、12－13分ですみます。また我々も海部病院を留守にせずにすみ、救急車も町内の搬送だけですので次の急患に対応できます。

この消防防災ヘリコプター、実はいわゆる「ドクターヘリ」ではありません。“えっ？新聞でドクターヘリという文字を見たよ”という方々も多いと思いますが、今、徳島県で行われているのは、あくまでも消防防災ヘリを患者搬送用として病院間搬送に使っているにすぎないのです。

ドクターヘリとは、あらかじめ救急患者用にストレッチャーや酸素、医療機器を搭載した**救急専用のヘリ**で、要請があれば基地病院から救急医を乗せて**2－3分**で飛び立ちます。そして**事故現場付近に着陸**(＝病院ではない)し、**現場から救急医療を開始**するというものです。つまりドクターヘリとは、搬送を主目的とするのではなく“一刻も早く治療を開始するために医師を運ぶ”のを目的としているのです。ドクターヘリは交通事故や心筋梗塞、脳卒中などの急病に有効であると同時にまた、医師不足の深刻な地方などの社会不安にも対応可能な手段と考えられています。救急車では長時間搬送してやっと病院にたどり着くところを、遠くからヘリで現場に医師が飛来し救急処置を行い、機内で治療を続けながら設備のととのった病院へ搬送することができます。このドクターヘリによる救急医療システム整備は、今まさに問題となっている『命の地域格差』を解消する答えのひとつだと考えています。地域住民の最低限のセイフティ・ネットとして、全国では13県14機のドクターヘリが運航しており、来年度以降も着実に増えていく予定です。現状の「消防防災ヘリの医師ピックアップ方式」からさらに進化した「真の意味でのドクターヘリ」が、徳島の空に一日も早く飛ぶことを待ち望んでいます。

ドクターヘリの和歌山県との相互応援が春ごろの運用開始を目指して準備が進められており、徳島県内で出動要請が重なった場合という限定的なものですが、専用のドクターヘリの活用が始まる見込みとなっています。



地域医療を守る会 決起大会が開催されました

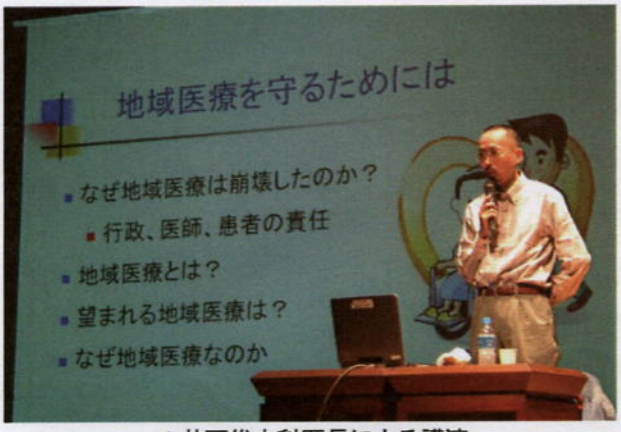
▲あいさつをする竹林貢会長

11月16日(日)に牟岐町の海の総合文化センターで、「地域医療を守る会決起大会」が開催されました。

「地域医療を守る会」は、海部郡内の医療改善を目指すことなどを目的として、牟岐町婦人連合会などの住民団体の有志により10月2日に設立されたものです。

大会では、守る会会員や一般住民ら約400人が参加する中、医師不足の課題に直面する地域医療の問題にいかに取り組んでいくかについて熱心な議論がなされました。

大会の冒頭で、竹林貢会長は、「医局制度の改革などにより医師が偏在し、地域医療の崩壊の時代と言われている。郡内の医療を守るためには住民のパワーが不可欠」とあいさつを述べられました。



▲井下俊内科医長による講演

続いて、当院の井下俊内科医長が「地域医療を守るためには」と題する講演を行い、「県立病院だけでなく、医師会、介護施設、自治体、住民が一丸となって地域医療の再生に向けて取り組んでいく必要がある」と強調しました。

講演の前の寸劇では、石本知恵子副会長と濱口隼人医師による軽妙なかけ合いで、会場がリラックスムードに包まれる中、地域医療を立て直すために住民ができることを小さなことからでもはじめて、できた波紋が渦となって絶やさないようにしようとよびかけました。

▲石本知恵子副会長と濱口隼人医師による寸劇

最後に、「地域医療の現状を学習・理解し認識を深める」「医療従事者や医療機関と良好な関係づくりに努める」などとした大会決議が満場の拍手で承認されました。

「守る会」では、11月29日には「兵庫県柏原病院の小児科を守る会」などの先進事例が紹介された「地域医療を考えるシンポジウム」にシンポジストとして参加するなど、積極的な活動を展開しています。

このような地域住民による支援の火がともり、輝き始めたことについて、感謝するとともに、今後も「県民に支えられた」病院として県民医療の「最後の砦」となることを念頭に医療に取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

海部病院

産婦人科からのお知らせ

母乳外来をご利用ください

母乳育児の確立を目指して、授乳中のお母さんを対象に、助産師が指導やケアを行っています。赤ちゃんといっしょに来ていただいて、乳房マッサージを行ったり、搾乳の方法などの乳房ケアの指導を行うほか、実際に赤ちゃんの授乳の様子をみてアドバイスをするなど、母乳育児のサポートをさせていただきます。

- **予約制です。**
  予約受付：0884-72-1166(代表)　担当助産師におつなぎします。
- **対 象 者**　授乳中のお母さん（妊娠中の方は対象としていません。）
- **実 施 日**　毎週月曜日と水曜日　14時～16時
  産婦人科外来終了後に行っています。
  なお、産婦人科外来が休診の時は休ませていただきます。
  ※この日以外でも助産師の勤務状況により対応できますので一度ご連絡ください。
- **料　　金**　1回　2,100円
- **実施時間**　30分～1時間
- **持 参 物**　フェイスタオルを2～3枚ご持参ください。

院外妊婦健康相談・母親学級（美波町）に参加して

助産師　大黒綾子

12月12日(金)に美波町で行われた母親学級に参加しました。今回参加された妊婦さんは1名でした。

体重や自身の体の変化や生活状況をもとに保健師さんといっしょに栄養・生活指導を行いました。初めての妊娠で22週ということもあり、さまざまな不安を抱えておられるようでしたので、緊急時の対応方法や当院の電話相談を紹介しました。

今回の相談に参加してつながりができたことによって、少しでも不安が和らいでくれたらと思います。

海部高校生対象の「子育て出前講座」に参加して

助産師　猪龍みゆき

11月28日(金)に南部総合県民局主催の「子育て出前講座」に参加しました。50分間という限られた時間でしたが、妊娠経過、新生児の特徴、沐浴のさせ方について講義し、妊娠擬似体験と沐浴実習を行いました。どの生徒さんも一生懸命きいてくれました。

講座に参加してくれた15名の生徒さんが、将来結婚し妊娠、出産したときに今回の講座のことを思い出してくれればと思います。

■発行日　平成21年1月15日
■発　行　徳島県立海部病院広報委員会　〒775-0006 徳島県海部郡牟岐町大字中村字本村75-1
TEL：0884-72-1166　FAX：0884-72-2383　HP：http://www.tph.gr.jp/~kaifu